

薬草だより

立てばシャクヤク…

樋口 剛央*



安徽省芍薬栽培品種(富貴薬草試培園保存)

生薬名: シャクヤク (芍薬)

薬用となるシャクヤクの基原植物:

・第十六改正日本薬局方 (2011年)

Paeonia lactiflora Pall. (ポタン科)

・中国薬典 2010年版

白芍 *Paeonia lactiflora* Pall.

赤芍 *Paeonia lactiflora* Pall. 又は

Paeonia veitchii Lynch (ポタン科)

薬用部位: 根

毎年5月頃、春の心地よい陽射しをあびた芍薬の芳しい花が新緑を圧倒する風景をよく見かけます。「立てばシャクヤク座ればポタン歩く姿はユリの花」と美人の代名詞になるほどシャクヤクの花は美しいです。また、生薬としても「神農本草経」中品に収載され、中国で古来より重用された薬剤で、日本でも芍薬甘草湯をはじめ葛根湯、当帰芍薬散ほか重要な漢方処方構成生薬の1つです。

時代劇で婦人が突然腹部を押さえて苦悶の表情を浮かべ「持病の癩(しゃく)が…」という有名なシーンの「癩」は胃腸炎などに起因する筋肉の痙攣がもたらす種々の疼痛のことであり、「さっ、これを飲みなさい」と飲ませた薬が芍薬甘草湯だそうです。

日本のシャクヤク市場流通品には日本薬局方シャクヤクおよび中国由来の白芍、赤芍があります。そのほか中国産皮去り生干し芍薬、皮付き生干し芍薬等が近年新たに加わり、指標成分であるペオニフロリンに有意な差があるため、各社用途に応じて使い分けています。なお、赤芍は日本薬局方には該当していませんので、全くの別物として取扱います。日本国内の年間使用量は、カンゾウに次いで2番目に多い生薬です。

日本では主に北海道、奈良、長野県で、中国では主に安徽、四川、浙江、湖北省で栽培されています。赤芍は主に中国内蒙古自治区の自産品です。

栽培期間は日本、中国とも4~5年間。収穫は主に秋期(9~10月)、作付けは収穫と同時に作業をします。栽培期間が長いので経済効率は決してよい作物ではありません。更に収穫後の調整で洗浄、選別、皮去り、乾燥等、農家には多大な手間を要します。

繁殖は株分けで行います。実生繁殖法もありますが一般的ではありません。

また、庭先などで観賞用として栽培する場合は、5年位で植替えをお勧めします。連作障害が発生しますので植えたままにしておくのは禁物です。



芍薬栽培風景
(医薬基盤研 北海道研究部)



安徽省
秋期芍薬収穫風景



安徽省
芍薬作付け用苗株



安徽省芍薬加工場
皮去用木製桶